

特別賞

全国コンクール：入選

熊本放送賞

【注目】ネット上の情報は本当に信じてもいいの？

おすすめ

ランキング

芸能

国際

スポーツ

天気

あなたにおすすめのニュース

【注目】ネット上の情報は本当に信じてもいいの！?

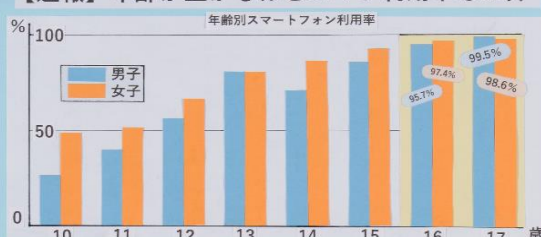
このタイトルに目が止まったあなた。

タイトル詐欺かと感じたかもしれませんが、これが今回の問題提起です。身近な存在となったインターネットには、便利で有益な情報が溢れる一方、**自分に都合の良い情報ばかりが目に入り、真実が見えにくくなる危険性もあります。**

情報社会において、何を信じるべきかを考えることが求められています。このポスターをきっかけに、**ネットを賢く使いこなすための一歩を踏み出してみませんか。**

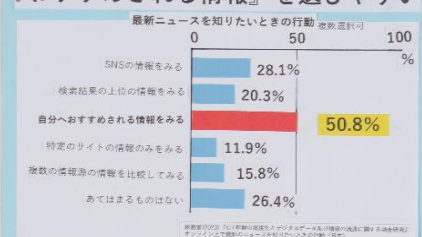
※この情報は、信頼性の高い統計データに基づいていますが、その精度はあくまで参考にするのではなく、客観的に検証することが必要です。

【速報】年齢が上がるほどスマホ利用率も上昇



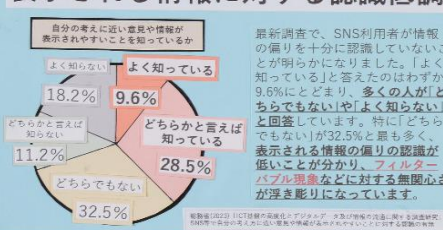
最新の調査によると、年齢が上がるにつれてスマートフォンの利用率が急増していることが明らかになりました。特に16歳以降では**95%以上**が使用しています。つまり、高校生のほぼ全員がスマホを活用している現状です。この結果は、**インターネットが日常生活に深く浸透し、身近な存在となっていること**を示しています。スマホ利用の増加は、情報社会の中で過ごす私たちにとってネットが不可欠な身近なツールになっている現状を反映しています。

『おすすめされる情報』を選びやすい



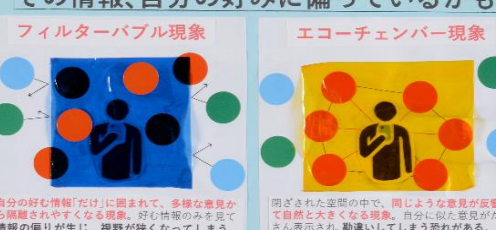
ニュースを手入手する際、ニュースサイトやアプリで「**自分におすすめされる情報**」を見る割合が**50.8%**と最も高いことが明らかになりました。これに対し、SNSから情報を見る人は28.1%、検索結果の上位に表示された情報を見る人は20.3%にとどまりました。また、複数の情報源を比較する人は15.8%と少数派です。この結果、**自分におすすめされる情報を意識しがちであることが浮き彫り**になっています。

表示される情報に対する認識低調



最新調査で、SNS利用者が情報の偏りを十分に認識していないことが明らかになりました。「よく知っている」と答えたのはわずか9.6%にとどまり、**多くの人が「どちらでもない」や「よく知らない」と回答しています。**特に「どちらでもない」が32.5%と最も多く、**表示される情報の偏りの認識が低いことが分かります。**フィルターバブル現象などに対する無関心さが浮き彫りになっています。

その情報、自分の好みに偏っているかも

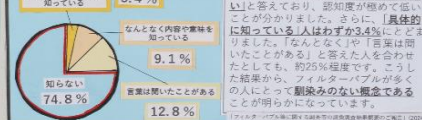


【重要】「用語の認識度」が、「表示される情報の仕組みの理解」に結びつくことが判明



この結果から、「フィルターバブル現象」に関する知識がある人は、ネット上の表示される情報選択の仕組みを理解していることが明らかになりました。特に、内容や意味を具体的に知っている人のうち、65.9%が「ネット上の情報が選択的に表示されること」をうまく理解できていると答えています。逆に「なんとなく知っている」と答えた人は、**「よく知っている」と答える割合が低い**ことが分かります。この結果は、フィルターバブル現象に対する知識の低さが、表示される情報の偏りを生み出す一因となっていることが示唆されています。

フィルターバブル現象の認知度について



調査によると、全体の**74.8%**が「知らない」と答えており、認知度が極めて低いことがわかりました。さらに、「**具体的に知っている**」人はわずか**3.4%**にとどまりました。「なんとなく」や「言葉は聞いたことがある」と答えた人を合わせたとしても、約25%程度です。こうした結果から、フィルターバブル現象が多岐にわたる人にとって馴染みのない概念であることが明らかになっています。

【まとめ】ネットは求める情報が気軽に手に入る一方で、それ以外の多様な情報に対して意識的に目を向けることが重要と判明

ネット情報の信頼性を見極めるには、出てくる情報だけでなく**多様な情報に意識的に目を向けることが重要**です。異なる視点を意識することで、情報の偏りを避け、より信頼性の高い情報にたどり着くことができるでしょう。このポスターを通じて「**フィルターバブル現象**」について知ったあなたは、**今後、ネット上の情報の見方が少し変わったかもしれません。**これは、これからも意識して続けていく必要があります。

安達 慧

熊本大学教職大学院2年

まるでパソコンの画面を見るような感じの画面が効果的です。スマホ利用率の上昇やその中で生じる「自分の考えに近い意見や情報が表示される」フィルターバブル現象の危惧など、情報の多様性を知り、意識することが大切であると提案されていて納得させられます。

棒グラフや円グラフ、帯グラフなどの使用が適切で画面構成や配色も良く、「フィルターバブル現象」や「エコーチェンバー現象」などは、特に個性的で実に分かりやすい説明表現となっています。